

「第2回大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会」

会 議 録

日 時：平成19年11月13日（火）
10：00～12：00
場 所：大垣市役所 3階 合同委員会室

次 第

【司会：寺嶋企画部政策調整課長補佐】

1. あいさつ【広瀬企画部政策調整課長】
2. 意見交換【進行：鈴木座長】
 - 進め方の説明（鈴木座長）
 - 大垣地域広域市町村協議会・広域合同研修会の報告（鈴木座長）
 - 先進事例の説明
 - ・浜松市における取り組み事例の説明（鈴木座長）
 - 情報提供
 - ・ものづくり(製品)におけるユニバーサルデザインの説明（松本副座長）
 - ・中部国際空港のユニバーサルデザインを考えるシンポジウムの報告（辻本委員）
 - ・芭蕉元禄と自噴水で大垣に光を～人と人が生み出す交流と文化～の説明（箕浦之治委員）
 - 意見交換（ファシリテーター/Aグループ：鈴木座長、Bグループ：坂委員）
 - ・ユニバーサルデザインを生かしたまちづくりの基本理念の整理
 - ・ユニバーサルデザインを生かしたまちづくりを推進するための具体的分野の整理
3. その他

配付資料

<第1回研究会>

○会議録

<大垣地域広域市町村協議会・広域合同研修会>

○講演録

<第2回研究会>

○第2回大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会次第

○ユニバーサルデザイン推進指針策定スケジュール(変更後)

○第2回大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会出席者名簿

○先進事例の説明

・浜松市における取組事例の説明「ユニバーサルデザインのこともっと知りたい！」

○情報提供

- ・中部国際空港のユニバーサルデザインを考えるシンポジウムの報告
- ・芭蕉元禄と自噴水で大垣に光を～人と人が生み出す交流と文化～の説明

○意見交換

- ・大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会
～第2回・第3回研究会での意見交換の内容～」
- ・（参考資料）先行自治体におけるUD推進指針の基本理念

出席者

[グループA]

鈴木 誠	岐阜経済大学経済学部教授・地域連携推進センター長	
奥田 静子	大垣市連合婦人会副会長	
吉田みはる	大垣点訳グループ愛盲会副会長	
成瀬 重雄	大垣商工会議所専務理事兼事務局長	
箕浦 彬	財団法人大垣国際交流協会事務局長	
箕浦 之治	大垣市観光協会副会長	
大橋 宏之	大垣市立小中学校長会（大垣市立時小学校長）	
佐藤 有美	公募による市民	8名

[グループB]

松本 英三	大垣女子短期大学デザイン美術科学科長・教授	
富田 重幸	大垣市老人クラブ連合会会長	
小林 修	大垣市青年のつどい協議会会長	
坂 忠男	特定非営利活動法人大垣まちづくり市民活動支援会議副理事長	
辻本 周作	終の住まい研究会プラチナプラザ代表	
日比野良己	大垣市障害者団体連絡協議会理事	
一柳 善郎	公募による市民	
渋谷みゆき	公募による市民	8名

[事務局]

広瀬 幹雄	大垣市企画部政策調整課長	
寺嶋 太志	// 企画部政策調整課長補佐兼政策調整係長兼広域政策係長	
後藤 威博	// 企画部政策調整課主査	
長澤 由起	// 企画部政策調整課主事	
高木 明弘	// 企画部政策調整課主事	
梅原 慶子	岐阜経済大学研究支援課	
菊本 舞	岐阜経済大学地域連携推進センター・チーフコーディネーター	

発 言 録

1. あいさつ

【寺嶋企画部政策調整課長補佐】

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます、政策調整課の寺嶋と申します。どうかよろしくお願い申し上げます。

それでは、只今から「第2回大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会」を始めさせていただきます。

なお、本日は、岐阜経済大学まちなか共同研究室マイスター倶楽部学生副代表の堀様、大垣市社会福祉協議会事務局長の早崎様、公募による市民の山崎様が所用のため、ご欠席でございます。

はじめに、広瀬政策調整課長から、ごあいさつ申し上げます。

【広瀬企画部政策調整課長】

政策調整課長の広瀬でございます。研究会の開催に当たりまして、ごあいさつ申し上げます。

委員の皆様には、本日、大変ご多忙の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。お手元に修正後のスケジュールをお配りしておりますが、日程調整で大変ご迷惑をおかけいたしますが、今後の研究会につきましても、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

さて、第1回研究会では、鈴木座長様から、ユニバーサルデザインの基本的な考え方の説明をはじめ、高山市や松本市などの先進事例の紹介などをいただきました。委員の皆様には、「なかなか聞きなれない言葉である」といったご発言もございましたが、バリアフリーの考え方との違いなど、ユニバーサルデザインの考え方について、ご理解を深めていただけたのではないかと存じます。

本日は、2つのグループに分かれていただき、それぞれの進行役のもとで、「ユニバーサルデザインを生かしたまちづくりの基本理念の整理」、「ユニバーサルデザインを生かしたまちづくりを推進するための具体的分野の整理」などをお願いしたいと存じます。

「大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（案）」の策定に向けて、積極的な意見交換をお願いしたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

【寺嶋企画部政策調整課長補佐】

それでは、続きまして、次第の「2. 意見交換」に移りたいと思いますが、これからの進行は、鈴木座長様をお願いしたいと存じます。どうぞ、よろしくお願い致します。

2. 意見交換

【鈴木座長】

意見交換に入る前に、事務的な手続きをさせていただきます。お手元に第1回研究会の会議録をお配りしてありますが、市のホームページと市役所1階の市政情報コーナーにおいて公表されますので、よろしくお願いします。本日の研究会につきましても、個人情報など非公開とする事案がないことから、大垣市情報公開条例の規定に基づきまして、公開といたします。また、この研究会の会議録も第1回会議と同様に公表されますので、よろしくお願いします。

それでは、ここで研究会の開催に際しまして傍聴を希望されている方がお見えになりますので会場に入ってください。

《傍聴希望者が入場》

意見交換に先立ち、鈴木座長から次の3項目の説明を受けた。また、第1回研究会の後に情報提供いただいた3名の委員から説明を受けた。

○第1回研究会の振り返り【鈴木座長】

前回の研究会では、ユニバーサルデザインの意義、ユニバーサルデザインを生かしたまちづくりの重要性、さらに類似概念としてバリアフリーについて紹介したことを確認した。

○大垣地域広域市町村協議会・広域合同研修会の報告【鈴木座長】

10月5日の大垣地域広域市町村協議会・広域合同研修会の報告資料が配付してあるので、次回までに読んでいただくように各委員に依頼した。

○先進事例の説明【鈴木座長】

浜松市のユニバーサルデザインの考え方をまとめた配付資料「ユニバーサルデザインのこともっと知りたい！」について、これから行う意見交換で、どのような分野、内容について定めていくのか議論するので、この冊子を参考にしていきたいと要望した。（例、物、施設、移動手段、気持ち（心の部分）など）

○情報提供

・物づくりににおけるユニバーサルデザインの考え方について【松本副座長】

（はさみ等ユニバーサルデザイン製品、バス乗車カードを提示しながら説明）

サインなど、まちにある表示に関心を持って見ている。名古屋市では良いとは言えないサインが多い。地理が不案内の土地で、目的地に楽にたどり着くことができるかどうかで、そのまちのユニバーサルデザインに対する意識の高さを推し測ることができる。

また、ここにいくつかのバスの乗車カードを持ってきた。イラストなどは工夫を凝らし、デザインは良いが、どのように使うのかまったく分からない。カードの使い方はバス車内には掲示してあるが、字が小さくて降りるまでに理解することが困難である。このように大企業でもユニバーサルデザインに対する意識がどこまで浸透しているのか疑問な面もある。

関の刃物屋から手に入れたカスタネット型はさみであるが、使用しやすく切るたびに音が出て楽しいが、1,500円で高価である。沢山は売れないので単価は高くなるが、このように付加価値を付ける試みは大変心強く感じている。

工業デザインの業界では、ユニバーサルデザインに取り組んでいるが、産業界全体としてどれだけ本気で取り組んでいくのか興味を持っている。どの人にも使いやすいというものは難しい問題であるが、デザイナーにとってユニバーサルデザインは命題であり、これからの時代はユニバーサルデザインを取り入れ、成熟させていくことが必要な時期に来ている。

・中部国際空港のユニバーサルデザインを考えるシンポジウムの報告【辻本委員】

当日は、会場の前列側に多くの障がい者の席が準備されており、沢山の方が参加されていた。このことから、ユニバーサルデザインとは思いやりと奉仕の精神が重要であるという印象を受けた。

セントレア見学ツアーでは、飛行機の駐機位置とアクセス通路が良く考えて配置されていることが分かった。また、空港の機能を中心に集め、四方に目的別に各施設・通路を接続させるなど合理的な設計であり、設計段階から10数回のディスカッションを重ねた結果が実を結んだものである。

谷口元氏（名古屋大学教授）によればトイレの設置に当たり、身体障がい者の方の参加を求め、機器メーカーへ直接出向いて議論し、結果を出したということである。このように経験を積むことの大切さを学んだ。その他の施設についても、いろいろなハンディキャップを持つ人を含め、さまざまな人に配慮したことが伺える施設であった。

・芭蕉元禄と自噴水で大垣に光を～人と人が生み出す交流と文化～の説明【箕浦之治委員】

商工会は産業界の団体であるが、交流産業委員会、交流産業戦略研究会のメンバーには産・官・学・民の広い分野から参画していただき、2年間で掛けて研究、協議を重ねた。このように、いろいろな行事などを実施する場合には4つの組織が連携することが大垣のまちづくりに必要ではないかと考えている。

配付の資料にはユニバーサルデザインがどの程度反映されているかは不明だが、少なくともハード関係が先行している。ユニバーサルデザインの資料によると建物、製品、サービス等が対象となるが、その内のサービスのソフト関係がまちづくり全体として重要ではないか。

大垣らしさを求めていく場合、「ダイナミックシティ大垣」にもあるとおり、大垣は産業都市であるので、これまで以上に産業の育成が必要である。また、

大垣市および近郊の市町村では人口が減少しているので、観光と交流（地域内交流・地域外交流）に着目していくことも必要である。さらに、大垣らしさについては水と緑、歴史と文化、あるいは「かがやきライフタウン」などがあり、そのような大垣らしさを求めたまちづくりがすべての前提となると思う。

配付資料の表紙にあるように、交流産業戦略研究会では「住んでよし訪れてよしのまちづくり」をしようということで、そのために「人と人が生み出す交流と文化」を大切にすることで人間関係が深まって、良い「まち」になるという視点を持った。

そして、大垣市は唯一、「奥の細道結びの地」であるので、芭蕉を前面に出すことと、もう一つは元禄であり、この時代の大垣は貿易・交流が栄え、歌舞伎が流行り、食生活や食文化に変化をもたらし、また忠臣蔵では藩が重要な役割を果たした時代である。このダイナミックな時代と芭蕉の文化的な部分を組み入れ、さらに自噴水にも光を当てて、大垣の魅力を感じてもらうことを提言としてまとめている。

《グループ別に分かれて意見交換》

○Aグループ

【ファシリテーター：鈴木座長】

大垣市の推進指針をつくる上で、ユニバーサルデザインそのもの、ユニバーサルデザインを生かしたまちづくりについて基本的な考え方と具体的分野でどのようなまちづくりを目指すのかを明確にすることが、市民が理解するためにも必要である。今日は、以上の2点について意見交換をお願いする。

最初に、いくつかの先行自治体の例を振り返ってみたい。配付資料の「（参考資料）先行自治体によるUD推進指針の基本理念」を参考に話を進める。

＜愛知県岩倉市＞

「ユニバーサルデザインのまちづくり理念」について佐藤委員が読上げ、内容を確認し、鈴木座長により「岩倉市ユニバーサルデザイン振興指針」の中に位置付けられていることと分野・役割について解説をした。

＜静岡県浜松市＞

基本理念「思いやりの心が結ぶ優しいまち」の本文部分を大橋委員が読上げ確認し、鈴木座長が全国的に見て、最も取り組みが先行している浜松市の基本理念について、基本計画の中に位置付けられていることを解説した。

＜京都市＞

「みやこユニバーサルデザイン推進の基本理念」の5項目について、箕浦之

治委員が読上げて内容を確認し、鈴木座長がまちの特性を反映した具体的な項目を掲げた理念などについて解説を加えた。

<愛知県豊橋市>

基本理念「心がつなぐユニバーサルデザインのまちづくり・とよはし」の本文部分を箕浦彬委員が読上げ、内容を確認し、鈴木座長が理念の位置付けについてオーソドックスな構成であるが基本的な項目を抑えたものとして解説を加えた。

大垣市の推進指針を策定するに当たり、今回のテーマである基本理念をいきなり文章化するのは難しいので、盛り込む観点やイメージについて発言をお願いしたい。

【成瀬委員】

イメージ的には、「安全・安心」や「協調」などの言葉は重要ではないかと思う。市長の話の中でも安全・安心のまちづくりが出てくるので、当然触れられることではないかと思う。

【ファシリテーター：鈴木座長】

経済界として、旧大垣市は産業都市としての性格が強いが、産業文化都市として考えた場合に何か観点はあるか。

【成瀬委員】

産業というと昔は騒音や公害などのイメージが強い。事実、昔は汚染物質を排出していたが、最近はISO環境基準の認定や緑を植えるなど努力しているので、一般市民が産業・工業界から受けるイメージを良い方向に変えていくことも必要と思う。

【ファシリテーター：鈴木座長】

ユニバーサルデザインには、ものづくりや新たなサービスというマーケットをつくっていく働きも有している。理念に入れるかは別として、具体的な分野としては有り得ると考えられる。

【吉田委員】

理念には、あまり沢山盛り込んでも理解し難いのではないか。高齢者が理解でき、子どもに説明して分かるような、今まで普通に使われているような言葉が良いと思う。他市の例では、その意味で身近に感じられる岩倉市が良いと思う。

【ファシリテーター：鈴木座長】

他市の例を見ると、ひらがなが多い。ひらがなそのものが日本人のユニバーサルデザインを表現しているという人がいる。多くの方に配布する冊子などを点字にする必

要はないか。

【吉田委員】

そのようにされると良いと思う。

【ファシリテーター：鈴木座長】

まだ、他市では例がないが、ユニバーサルデザインの趣旨からすると、理念の部分だけでも点字があれば先進的な試みとして良いと思う。

【奥田委員】

環境に配慮しながら「ユニバーサルデザインの7つの原則」を取り入れて考えていくことが必要である。ユニバーサルデザインにおいても、一方が良ければ、他方が悪いということがある。すべてを満足させるのは難しいが、まずは、公平であることと分かり易い表現が良い。

【ファシリテーター：鈴木座長】

皆さんの意見では、誰にとっても分かり易い表現、内容であること。その中には7つの原則が反映されていることが必要。そして「誰もが」の部分では、現在、大垣市では外国人の方も多くなってきたということや、策定した指針が、大人が納得するだけでなく次の世代がこれを見て学んでいくことができるものが良い。そのあたりを箕浦彬委員の意見をお聞きしたい。

【箕浦彬委員】

現在、7千人の外国人がみえ、ブラジル人、次いで中国人が多い。ガイドブックなどを作成しているが、6月の時点で40か国の方が居られるので、すべてに対応は不可能な状態である。現在は、英語、ポルトガル語、中国語で発行している。新聞記事によれば、横浜市では優しい日本語は外国語という観点でガイドブックを作成している。このような観点で基本理念やパンフレットをつくれば、日本で生活する外国人なら理解できる人は多いと思う。

【ファシリテーター：鈴木座長】

大事な視点であり、優しい表現が必要と思う。箕浦之治委員に交流産業戦略や旅行という観点を含めてご意見をお聞きしたい。

【箕浦之治委員】

京都の基本理念が多様な人を対象として表現されているが、このように多面的に捉え、理念を形として示していくことが必要。大垣らしさは、長い歴史の中で、芭蕉や自噴水だけではなく、地域性も合併により、さらに多様性を持つ。地域の特性を大切にしながら、まちづくりを進めるのが原点ではないか。

水と緑、歴史・文化を大切にした環境づくりも重要。交流産業の面からリピーターの多く訪れるまち、名古屋で仕事をして、週末は大垣に住みたくなるような豊かなまちでありたい。観光は地域の光を見ていただくのが原則で大垣の良さを大切にする必要がある。そのことはそこに住む人の環境を整えるためにも大切である。

産業観光都市として、浜松市などの先駆的な取り組みをしている他市を参考にするとともに、大垣らしさを維持していくことが必要だと思う。そのためには、これまでのもの、自然を大切にしていくことと、人と人のコミュニケーションを図ることができる地域が人間社会にとって重要であるということを理念のなかに出していただきたいと思う。

【ファシリテーター：鈴木座長】

京都市では5つの柱があり、それぞれに説明文が付けられていて、コンパクトである点で優れているが、主張がはっきりしているだけに外部から見た場合どうだろうか。

多くの市民、訪れる人を対象とした岩倉市、浜松市、豊橋市はその点では誰にとっても分かりやすい。子どもの教育の現場に居られる大橋委員の意見をお聞きたい。

【大橋委員】

一番感じているのは、「安全・安心」と「快適」であるが、しかし、現状は物騒である。1週間に1、2回は不審者情報が入る。皆の意識を変えることで、散歩の時間帯をずらすなど防犯活動ができる。快適の面では、「水と緑」とよく言われるが、水門川など綺麗な状態とは言えない。まちの中の水でも生活空間を綺麗にし、環境を保全することが大切である。もっと緑を増やすことで地球の温暖化防止に役立つ。

物の面では、先日、入学説明会があったが、はさみを使えない子、傘をさせない子がいる。人間の持っている能力を退化させるのではないかという心配な面もある。ユニバーサルデザインをどこまでやるのかが課題であると思う。

【ファシリテーター：鈴木座長】

あくまで「安全・安心・快適」ということ。人間が前向きに人らしく暮らすことを放棄してしまうような表現に結びつくことは避けるべきと思う。許されるべき適当なハードルがあり、それを乗り越える努力、傍で見ている人の声かけが、地域社会を創ることや学習をするきっかけになるということもある。そのようなものを理念の中にかもし出すことが一つの課題であろう。佐藤委員の意見はどうか。

【佐藤委員】

不便を不便と思わず暮らしているので、バリアーはまったく無いとは思わないものの、ユニバーサルデザインは社会づくりの話であると感じた。

指針ができたときに自分達の暮らしとつながっているのだということが、実感できるような理念であって欲しい。

【ファシリテーター：鈴木座長】

ユニバーサルデザインというのは、行政サイドのみで新しい部署をつくるということではなく、大垣の社会全体を市民、NPO、産業界、行政がユニバーサルデザインを推進するパートナーにならなければいけないということが理念として入ってくる必要があるであろう。ヒントとして「大垣地域広域市町村協議会・広域合同研修会講演録（ユニバーサルデザイン入門）」の最後のページに「日本になぜUDは必要か」とある。「このまちにずっと住み続けたいから、誰が訪ねてきてもいいように、UDの街は多様な市民が住みよい街」にしたいからである。また、「美しい国より住みよい郷土（くに）へ新たな「公」が担うもの、UDは自分でつくと行政も市民も意識を変えてゆこう」と記述されている。このあたりが理念の一つとして反映されてくるのではと考えている。さらに講演録の前ページに戻ると「行政と市民が作り出す日本のUD」「自治体に求めるUD」について具体的に延べている。

以上で理念についてはとどめておき、配付資料「大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会～第2回・第3回研究会での意見交換の内容～（2）」のユニバーサルデザインのまちづくりを推進するための具体的分野について意見交換を進めたい。

まず、市民の意識はユニバーサルデザインを普及させていく観点から現状はどうか、どんな課題があり、どのように解決していくのかという視点。また、公共施設、民間施設における現状はどうか、どのように解決することが大事なのか、いろいろな施設を利用し、また管理する立場から意見をお聞きしたい。物、製品はユニバーサルデザインに配慮した物が普及しているか。大垣市役所ではどうか、長澤さんにお聞きしたい。

【長澤企画部政策調整課主事】

10月5日の合同研修において、講師から、行政はユニバーサルデザインを使った製品を取り入れていかなくてはならない。アメリカでは義務付けられているとの話があったが、大垣市ではまだそのような状況にはなっていない。しかし、行政が先進的に取り入れることにより、企業が製品を作る努力をし、それが売れることによって量産効果が上がり市民が購入することができる。そのような流れをつくっていかなくてはいけないと思っている。

【ファシリテーター：鈴木座長】

行政が、自らPRしていくことや製品の企画、製造段階における優遇措置や補助、あるいは公的な呼び水による市場開拓なども考えられる。

次は、情報の伝え方、その内容はどうか。サインについては先ほどの40か国もの人たちへの対応として課題や現実的にどう対応するかということがある。配付資料の「ユニバーサルデザインのこともっと知りたい！」のなかの「身近なユニバーサルデザイン」（見開きページ）では、左から「情報」の内容・伝え方、そして我々が日常使う「もの」、街中の標示や設備、移動手段などの「まち・交通」について、最後は

「建物、施設」について、ユニバーサルデザインを進める際の具体例を示している。それでは、市民の意識についてご意見をお聞きしたい。

【箕浦彬委員】

第1回研究会にも出たように、ユニバーサルデザインという言葉そのものが一般的でないことや、日常目にするトイレの絵文字や表示などは意識することなく見ているが、それがユニバーサルデザインであるとは市民は考えないのではないか。

【ファシリテーター：鈴木座長】

それを変えるためにはどのような工夫が必要か。

【箕浦彬委員】

2番目の項目にも関連するが、公共施設のほうから率先してユニバーサルデザインを取り入れていくべきではないか。それによって市民の意識を変えていくことになる。

【ファシリテーター：鈴木座長】

どの部分から進めていけばよいか。

【箕浦彬委員】

例えば、サインなどについて、文字だけで表すのは外国人を含めてすべての人に理解は出来ないので、絵文字や誰でも分かる文字を出来るだけ多く取り入れ、まちの表示、信号機の名称などを沢山表示することで、まち全体を分かりやすくすることが必要である。

【大橋委員】

現在、小学校6年生の国語の教科書にユニバーサルデザインのことが記述されている。このことと併せて啓発活動を進めて行けば、徐々にではあるが、家庭や市民のユニバーサルデザインに対する意識が浸透していくのではないかとと思っている。

【ファシリテーター：鈴木座長】

高山市では、市民向けと学校向けの資料を作成している。小学校で学んだことを地域社会の中で検証し、実現するために学校の教科書との連続性を意識してユニバーサルデザイン副読本を作成している。家庭や子ども会で活用することができるので、このことは大切なことだと感じている。次回、その冊子を持参したい。

【奥田委員】

ユニバーサルデザインについて、教科書に載せていることは「誰にも優しい」という考え方を子どものうちから学ぶ上で大切なことだと思う。併せて家族や市民に向けて身近なものとするためには、「7つの原則」などユニバーサルデザインが理解しやす

い説明を含め、大垣市広報などに掲載し、みんなの意識を変えていくことが大事だと思う。

【吉田委員】

バリアフリーはかなり浸透しているが、ユニバーサルデザインはまだまだである。多くの機会を捉える意味から、行政が企画する各種イベントなどでユニバーサルデザインコーナーを設けて浸透を図ること等などの取組みが必要と思う。

【ファシリテーター：鈴木座長】

大垣市は産業都市であるが、学んだユニバーサルデザインが周りに見当たらないと意識も薄れてしまうが、経営者の意識の面ではどうか。成瀬委員にお聞きしたい。

【成瀬委員】

大垣市の産業の特徴として、部品のメーカーが比較的多く、完成された製品が周りに少ないということがある。しかし、升などのように完成品もあり、優しいデザインに配慮していく方法はあるので、少しずつでも意識を変えて、その意識を持続していくことが大切である。これは市民意識を改革していく場合と同じである。

【ファシリテーター：鈴木座長】

産業の内、商業やサービス産業についてはユニバーサルデザインの可能性は非常に大きいと思うが、この点を箕浦之治委員にお聞きしたい。

【箕浦之治委員】

この地域の経営者は、新しい世の中の動きや環境面を含めて大切にされており、企業向けの講演会などを開催すれば数多くの参加者が期待できる。また、サービス業が多く、以前はばらばらの組織であったが、組織化が進み商工会、観光協会がひとつになって取組む動きがある。それが進展して勉強会等が開催されるようになると、サービス業の方達は店の雰囲気づくりに熱心であるので、入り口の段差の解消、メニューの中に点字の追加、優しい日本語での表示などの効果が表れてくると思う。

【ファシリテーター：鈴木座長】

市民の意識の捉え方にも、子ども達、経営者、学校関係者、あるいは行政がそれぞれの立場で検証を重ねて意識を変えていくようにリードすることが必要かもしれない。

具体的に話を進めると、配付した浜松市の資料「ユニバーサルデザインのこともっと知りたい！」の7ページに市民意識について記載している。ここにある日常生活の中で起こる出来事に遭遇した場合、我々市民は一步前に出て手助けしたり、声かけができるのだろうか。そのように見てみると、まだまだ不十分であることに気が付き、これが市民意識の現状でもあるといえる。

このように市民意識について、具体的な場面を使ってどのように変えていくことが

必要なのか、指針の中で事例として示していくのもひとつの方法ではないかと思う。

次に市民がよく利用する大垣市の施設はどうか。ユニバーサルデザインの観点で建設され、管理しサービスされているか。その現状について伺いたい。

【成瀬委員】

商工会議所の建物は身体障害者にとって不便な建物といわざるを得ない。ドアは手で押さないと開けられないし、多目的トイレも無い。職員の中で少しずつ意識が芽生えていることは評価できるが、経済的な理由もあり実現できていない。他の施設でも同じような状況ではないかと思う。

点字ブロックのことであるが、車いすを利用している人には障害となっている。段差を解消するということに逆行しており、このように果たして誰にも対応することができるのか不安も感じている。

【吉田委員】

点字ブロックは、視覚障がい者にとっても歩き難いという意見がある。一人で歩く場合は有った方がよいのであろうが、狭い歩道に付ける必要があるのか、また形状も様々であり、大垣市で規格など統一する必要がある。

【ファシリテーター：鈴木座長】

全国一律に法律で定められているものと、指針により大垣市に相應しいものを提案していくものがあると思う。外国人を含めた交流の観点から箕浦之治委員に意見をお聞きしたい。

【箕浦之治委員】

大垣駅前や郭町での案内看板は、昔と比較して改善されてきているが、まだユニバーサルデザインの観点からつくられたものはないように見受ける。駅前の看板について、今年度、国から予算が得られたのでユニバーサルデザインの考えを反映したものができると良いと考えている。

【ファシリテーター：鈴木座長】

高山市は観光都市で、観光客が増大している中で、一方的に行政が提供するのではなく、障がい者のモニターツアーを実施し意見を反映している。大垣市でも利用者の目線で見えて施設などを改善していくような指針が必要ではないだろうか。学校でも昔と比べると表示なども随分改善されていると思うが、学校ごとに取り組むことはあるのか、大橋委員にお聞かせいただきたい。

【大橋委員】

学校ごともあるが、市の方も予算的に可能なものは要望に応じてくれる。しかし、児童が怪我をして歩行できない場合の階段側面に取り付けられる自動昇降装置など高

価なものはない。

【ファシリテーター：鈴木座長】

岐阜経済大学では福祉関係のハード面を改善して岐阜バリアフリー賞を受賞したが、これにより情報提供が進み、障害を持つ学生が入学できるきっかけとなった。施設面の改善を示すことが大事だが、一方でそれを促すような誘導策、例えば、市のユニバーサルデザイン賞などの啓発策を設定して、それを民間などすべてのステークホルダーにより運用し、推進していくような仕組みも重要ではないかと思う。

終了の時刻が迫り、今回のものや製品、情報の伝え方については時間切れとなったので資料などを参考にして、追加意見として提出くださるよう、お願いする。現状及び解決の方向について箇条書きで記入いただくよう、よろしくお願いしたい。また、企業や学校などにおいて、我々が気付いていないユニバーサルデザインが採用されたものがあるのではないか。ユニバーサルデザインとはどういうものかということを知らせていくことが大切であり、その意味でもパンフレットなどの媒体を通して伝えていくことが必要だと思う。それでは最後にこれまでの意見について追加があれば伺いたい。

《委員から追加意見なし》

【ファシリテーター：鈴木座長】

来週の第3回研究会（11月20日）にもご出席いただきたい。市政にとって大事な指針であるので、お力をお貸しいただくことをお願いしたい。配付資料にあるように、基本理念について、市民の意識について、公共施設や民間施設について、物や製品について、情報の伝え方について、ご意見を追加用紙に記入して次回の研究会で提出をお願いする。

《Aグループ意見交換終了》

OBグループ

【ファシリテーター：坂委員】

資料「先行自治体におけるユニバーサルデザイン推進指針の基本理念」を参考に概ね15分ぐらいを目途に基本理念と具体的分野についてご意見を伺いたい。最初に事例発表の中で思いやりと奉仕を理念として取り上げられた辻本委員から、大垣市が定めるとすれば基本理念をどのように位置づけるか、ご意見を頂戴したい。

【辻本委員】

第一に、語源が分からないので調べてみた。ユニバーサルとは、一般的、すべての、共通したなどという意味で普遍的と言うことも含まれていて、すべての面で共通した

何かをつくり出すとか、考えるという意味である。また、実用面を考慮して、造形的な作品をつくりだす、目的をもって具体的に立案する、或いは設計する、というのがデザインの定義だそうである。よって、多様性のある定義になると考えられるので、細分化して具体的に考える必要がある。そのためにも各分野の専門的な方が経験を通して発表していただけるとありがたい。

【ファシリテーター：坂委員】

ユニバーサルデザインの定義づけは基本的な概念の部分に入ると考えられる。配付資料「先行自治体におけるユニバーサルデザイン推進指針の基本理念」の中にある岩倉市、浜松市、京都市、豊橋市の4市の理念を参考に、大垣市が取り組むユニバーサルデザインまちづくり理念について、ご意見をお聞きたい。

【一柳委員】

基本理念にあたっては、そもそもユニバーサルデザインとはどういうことなのかを、市民一人ひとりが自分のものとして理解する必要がある。そこがスタートであり、計画のベースに考えなければいけない。

【小林委員】

すべての方が安全で安心に暮らせるというのが、基本理念のベースになると思う。また、製品だけではなく、環境もデザインに定義づけられていることから理念に入ってくると思う。

【ファシリテーター：坂委員】

岩倉市の基本理念先は、「お互いを思いやり、すべての人が安全で安心して暮らせる、心豊かなまち いわくら」であるが、思いやり、すべての人が、安全・安心という言葉がキーワードとして入っている。浜松市の場合は、「思いやりの心が結ぶ優しいまち」で、優しいという言葉が出てきている。京都市の場合は「環境に配慮すること」や、「国際社会での取組と協調すること」など、京都ならではの基本理念が入っている。豊橋市は、「心がつなぐユニバーサルデザインのまち・とよはし」が基本理念で、あらゆる人が安心して暮らせる、思いやり、心をつなぐ、という言葉が出ている。こうした中で、大垣市の理念についてお聞きたい。

【富田委員】

大垣市自体がどういったまちづくりをしていくのかが、大きな基本になると考えるが、やはり安全・安心のまち、これが一番望ましい。大垣のまちを歩いてみたいという気持ちが持てるような安全・安心が保障されたまちづくりをしていただきたい。これには、警察も入ってくる、行政の関係も入ってくると考える。ユニバーサルデザインは総合的な安全・安心なまちづくりであると思う。

【ファシリテーター：坂委員】

安全で安心をかなり前面に出されているが、渋谷委員どうか。

【渋谷委員】

安心で安全であると、ゆとりが持て思いやりも出る気がするし、逆に思いやりがあることによって、安心・安全がつかれる気がする。先程、一柳委員が言われたように、すべての人がというのに対して、一人ひとりが自分のこととしてユニバーサルデザインを理解するという観点も考えられる。

【ファシリテーター：坂委員】

行政の立場から高木さんにお聞きしたい。

【高木企画部政策調整課主事】

大垣市は自然都市としての環境の取り組みをやっているので、環境に目を向けるなど、テーマが絞られると話がしやすいと思う。また、浜松市の基本方針で、何々したくなるまちづくりというのは、良いフレーズだと思う。例えば、一人ひとりがユニバーサルデザインについて学んでいく必要があるので、そういうものを学びたくなるようなまちづくりを進めていくとか、歩いてみたくなるまちとか、何々したくなるまちづくりというのは、ユニバーサルデザインを進めていくことにもつながると思う。

【ファシリテーター：坂委員】

大垣市のまちの中には、現在7千人程度の外国人の方がいる。そこで、国際化、グローバル化に対しては大垣市がどう接していくのかも、ひとつの問題であるので、それも含めた基本理念が必要になってくると思う。また、松本先生のご説明にもあったが、看板等の色やサインの統一も指針の中で取り組んでいく必要があると思うが、その辺のところを松本先生から伺いたい。

【松本副座長】

先行自治体の理念をみても、安心で安全というのがあるが、本来は、都市の景観や身体的な問題解決だと思うので、確かに犯罪の方が切実かもしれないが、これをユニバーサルデザインと理解してしまうと非常にとりとめがつかなくなる。

先程も話したが、道に迷った時に人にやさしく教えてくれるか、付いていってくれるか、その差が、都市がこれから求める決定的なユニバーサルデザインのひとつだと考える。ものやサインが完璧であれば、コミュニケーションに肩代わりができそうだが、人間がどうお互いにやさしさと共有できるかに辿り着くように思う。

【ファシリテーター：坂委員】

最終的に落ち着くところは、思いやりなどのソフト面なのだと思うが、まだ、言い足りないということがあれば、ご意見を願います。

【一柳委員】

ユニバーサルデザインというのは、ハードの純然たる都市計画に、それにどういう味付けをするかという意味での総合的施策であり、ハードがすべてというわけではなくて、デザインそのものの味付けの部分だと思う。すべてをクリアするのは、ほとんど不可能であり、そこには人の問題が大きく絡むだろうと思う。この理念を見ても、どこまで指針づくりをするのか、指針概念もあるので、そこをどうまとめていったらよいのかという問題もあり、短時間では通り一遍の形になる可能性もある。

理念一つをとっても、いろんな議論の中から擇っていくという方法もあるが、まとめてしまうのには疑問である。せっかく我々がこの会議に出させていただいているのであるから、多少なりとも気持ちというものが表現できないと寂しいと思う。そうでなければ地域特性をもった理念にはならないと考える。

【ファシリテーター：坂委員】

ファシリテーターとしては意見をまとめるというより、皆さんのご意見を大切にしたい。

次に、ユニバーサルデザインのまちづくりをするための具体的な理念で、市民の意識、公共施設・民間施設はどうなっているのかであるが、先進地の事例を参考に、ものや製品、情報、この4つの具体的分野について、現状分析、課題抽出、目標設定についてご発言願いたい。

【日比野委員】

ロックシティは、多目的トイレや店の案内などユニバーサルデザインの観点で大垣市では最も優れている。それから道路では北口が環境も含めて全体に良い。ただ、トイレがないのが残念。

【ファシリテーター：坂委員】

駅の北側が様変わりしているが、「夢づくり会議」なども加わり、歩道の広さなども検討され、地域住民の意見が反映されているので、ユニバーサルデザインの理念が入っていると感じられる。今のアクアウォークについては、どうだったのか。

【日比野委員】

アクアウォークの場合は、事前相談はなかった。あそこは、車椅子では駐車場のカードを入れる位置が、高すぎて入れにくい。

【ファシリテーター：坂委員】

民間施設、公共施設の中での現状と課題というものが出されたが、どこの項目でも結構なので、ご意見を願いたい。

【辻本委員】

まだまだ基本理念も含めて理解されていないので、警察官、犯罪に関係した人、身体障がい者の方などのご意見を十分に伺って、具体的に進めることが必要だと思う。

現状分析では、例えば、岩倉市、京都市などへ皆で出向き、調査をするのが一番良く理解できると考えるので、そこから始めていただきたい。

【ファシリテーター：坂委員】

市民の意識ということについては、啓発、啓蒙的なことが必要だと思う。1回目の配付資料「大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会第1回会議資料」の19ページの京都市では、みやこユニバーサルデザインシンボルマークの募集表彰、イベントの開催、パンフレットを作成、さらにアドバイザーの派遣などの啓蒙活動をやっている。

【辻本委員】

まず、そういうところから入っていくことが良い。

【小林委員】

例えば、大垣市の施設内の自販機などに、ユニバーサルデザインが生かされている表示があると良い。皆さんが分かりやすいような標記にすることで、ユニバーサルデザインを周知でき、そこから一歩が始まると思う。行政のパンフレットや、民間業者などが取り入れている大垣にあるユニバーサルデザインを、どんどんPRしていく必要がある。

【ファシリテーター：坂委員】

平成10年に岐阜県福祉のまちづくり条例が制定されたが、福祉のまちづくり条例適合賞が今も展開されている。ユニバーサルデザインでも、そういった提案ができたらと考える。

【富田委員】

公共施設では大垣市が一番遅れているように思うので、人の出入りの多い場所で、サンプル的につくっていただくことが、手っ取り早いと考える。特に大垣駅の南側から降りて公共のバスを利用しようとするのが危険なので、早急に考えていただく必要がある。もう一点は、大垣駅南口には降りのエスカレーターがないことである。北口が再開発をされてエレベーターが出来るが、模範的な形にしていいただいて、エスカレーターについても、最近、問題が多発しているので最良のものにしていいただきたい。

【ファシリテーター：坂委員】

この資料「大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会第1回会議資料」の中にも、エレベーター・エスカレーターの話があるが、人的問題にも

発展している。身近なところで、まだまだ気が付かれることも多いと思う。

【一柳委員】

行政というのは、どうしても国の管轄行政の縦割りになりやすい部分があるが、ユニバーサルデザインという範疇では、行政の枠を超えて他の部署では全く議論されないというのではなく、市の行政全部をひとつのベースにしていいただきたい。それを表現した市の広報も意識を変えていただけるベースになると思うし、個々のケアも統一して、自然に少しずつ浸透させて意識改革へつなげるよう、具体的に行政の中で是非やっていただきたい。

【渋谷委員】

ユニバーサルデザインという言葉に馴染みというのか、意識はまだまだ薄いと思うので、浜松市のように冊子を利用するなど、目にする、耳にする機会がもっと増えてくると良いと思う。小学2年の国語の教科書に点字のことが載っているが、そこからユニバーサルデザインに、十分につながっていないと感じた。大人も子どもも、もっと意識ができるような環境が大切。

【ファシリテーター：坂委員】

今、点字の話も出たが、視覚障がい者の方が街の中に出やすい状況なのか。

【日比野委員】

視覚障がいの方は足で感じて歩かれるから、凹凸が無いと歩けないが、段差は車椅子だけではなく、ベビーカーに支障がある。福祉会館の下側の通りは石畳なので非常に格好は良いが、僕らは車椅子なのでは通らない。

【ファシリテーター：坂委員】

点字の案内、サインというものが少ないと感じるので、視覚障がい者の人には、ノーマライゼーションが達成できていないと感じている。市民の意識の現状分析、課題抽出、市民の意識自体をもう少し高揚させるような提案みたいなものが欲しいと思うが、辻本委員どうか。

【辻本委員】

ユニバーサルデザインは文言が長いので、キャッチフレーズみたいなものだとか、省略して分かりやすくアピールするというのが、原則ではないかと思う。

【ファシリテーター：坂委員】

浜松市はユニバーサルデザインという文言が長すぎるので、配付資料「先行自治体におけるユニバーサルデザイン推進指針の基本理念」の中にもあるが、「U・優プラン」としている。「U」はユニバーサルのU、YOUのU、「優」は心が優しい、機能が優

れているという言葉で表現している。

【松本副座長】

ユニバーサルデザインという言葉自体、あえてこういった言葉から概念が発生するのではなくて、既にあった、もともと日本人が持っていた気持ちだと思うので、人間がもともと原点として、持っているものを指針のひとつに考えて、肉付けして欲しいと考える。

【ファシリテーター：坂委員】

市民の意識のところにに関して言うと、まだまだユニバーサルデザインの意識は低いと思うので、福祉のまちづくり条例にある福祉のまちづくりインストラクターのように意識の高い人による、啓発活動や派遣要請、出前講座も必要ではないか。

また、情報のところでは、子ども達はホームページを見たくても漢字が読めないの、ふりがなを打つということも、ユニバーサルデザインで考えれば必要と感じた。

時間がオーバーしてしまったが、足りない部分は「追加意見提出用紙」に記入いただくようお願いする。

《Bグループ意見交換終了》

【鈴木座長】

限られた時間であったが貴重なご意見を頂いたと思っています。お手元に「追加意見用紙」をお配りしているが、これは第3回研究会のときまでに記入をして、ご提出いただきたいと思います。（用紙が不足した場合は別の用紙でも可）。

第4回研究会までに皆さんからいただいた意見と収集した先行事例の分析を行い、それらを反映して大垣市にとって相応しいと思われる指針のたたき台を作りたいと思います。

第3回研究会では皆さんからいただく追加意見と第2回研究会の結果の再確認、第3回研究会の本題である具体的分野における主体別の役割分担並びにユニバーサルデザインを生かしたまちづくりについて、どのような進め方が良いか皆さんと意見交換を行いたいと思います。これについても追加資料を準備して第3回に配付したいと考えています。

3. その他

【鈴木座長】

それでは、「次第3. その他」について何かご意見があれば、承りたいと思います。

《委員から意見なし》

【鈴木座長】

本日の議事内容は以上であり、進行を事務局に渡します。

【寺嶋企画部政策調整課長補佐】

長時間にわたりご議論いただき、誠にありがとうございました。第3回研究会の日程でございますが、今月20日（火）、午後1時30分から3時30分までの2時間を予定しております。会場は同じでございます。よろしくお願い申し上げます。

それでは、これをもちまして、本日の研究会を閉会させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

———了———